

## 安全データシート (SDS)

## 1. 製品等及び会社情報

製品名:	オイルクリーナー Q1 (エアゾール)
会社名:	株式会社 タセト
住所:	神奈川県藤沢市宮前 100-1
電話番号:	0466-29-5638
緊急連絡電話番号:	0466-29-5638
FAX番号:	0466-29-5630
推奨用途及び使用上の制限:	脱脂用洗浄剤

## 2. 危険有害性の要約

## GHS分類

物理化学的危険性:	エアゾール	区分1
	* 記載のない物理化学的危険性は、分類対象外か分類できない。	
健康に対する有害性:	急性毒性(経口)	区分外
	急性毒性(経皮)	区分外
	急性毒性(吸入:ガス)	分類対象外
	急性毒性(吸入:蒸気)	区分外
	急性毒性(吸入:粉塵、ミスト)	分類できない
	皮膚腐食性及び皮膚刺激性	区分2
	眼に対する重篤な損傷性 又は眼刺激性	区分2
	呼吸器感受性	分類できない
	皮膚感受性	分類できない
	生殖細胞変異原性	区分1B
	発がん性	区分外
	生殖毒性	区分1A
	特定標的臓器毒性(単回ばく露)	区分2(血管系)、区分3(気道刺激性、麻酔作用)
	特定標的臓器毒性(反復ばく露)	区分1(肝臓)、区分2(神経)
	吸引性呼吸器有害性	区分外
環境に対する有害性:	水生環境有害性(急性)	区分1
	水生環境有害性(長期間)	区分外
	オゾン層への有害性	区分外

## ラベル要素

絵表示又はシンボル:



注意喚起語:

危険

危険有害性情報:

極めて可燃性又は引火性の高いエアゾール  
 高圧容器:熱すると破裂のおそれ  
 皮膚刺激  
 強い眼刺激  
 遺伝性疾患のおそれ  
 生殖能又は胎児への悪影響のおそれ  
 臓器(血管系)の障害のおそれ  
 呼吸器への刺激のおそれ/眠気又はめまいのおそれ  
 長期又は反復ばく露による臓器(肝臓)の障害  
 長期又は反復ばく露による臓器(神経)の障害のおそれ  
 水生生物に非常に強い毒性

注意書き: 【安全対策】すべての安全注意(本SDS等)を読み理解するまで取り扱わないこと。  
 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。  
 容器を密閉しておくこと。  
 熱、火花、裸火、高温のもののような着火源から遠ざけること。ー禁煙。

防爆型の電気機器、換気装置、照明機器を使用すること。静電気放電や火花による引火を防止すること。  
 個人用保護具や換気装置を使用し、ばく露を避けること。  
 保護手袋、保護眼鏡、保護面を着用すること。  
 ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。  
 取扱い後はよく手を洗うこと。  
 環境への放出を避けること。

- 【救急処置】火災の場合には適切な消火方法をとること。  
 飲み込んだ場合、無理して吐かせないこと。  
 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを容易に外せる場合には外して洗うこと。  
 皮膚に付着した場合、多量の水と石鹼で洗うこと。  
 衣類にかかった場合、直ちに、すべての汚染された衣類を脱ぐこと、取り除くこと。  
 汚染された保護衣を再使用する場合には洗濯すること。  
 ばく露又はその懸念がある場合、医師の診断、手当てを受けること。  
 飲み込んだ場合：直ちに医師の診断、手当てを受けること。口をすすぐこと。  
 眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、手当てを受けること。  
 皮膚刺激があれば、医師の診断、手当てを受けること。  
 漏出物は回収すること。
- 【保管】 容器を密閉して涼しく換気の良い場所で保管すること。
- 【廃棄】 内容物や容器を、専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

### 3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別： 混合物  
 成分及び含有量：

化学名	濃度(wt%)	CAS No.	官報公示整理番号 (化審法・安衛法)	PRTR法 <sup>1)</sup>
シクロヘキサン <sup>II)</sup>	50~60	110-82-7	(3)-2233	非該当
ヘプタン <sup>II)</sup>	15~25	142-82-5	(2)-7	非該当
エタノール <sup>II)</sup>	5~15	64-17-5	(2)-202	非該当
噴射剤：プロパン	15~25	74-98-6	(2)-3	非該当

危険有害成分：

- I) 化学物質排出把握管理促進法 非該当  
 II) 労働安全衛生法 57条の2 通知対象物質 シクロヘキサン(政令番号232)  
 ヘプタン(政令番号526)  
 エタノール(政令番号61)
- 毒物劇物取締法 対象物ではない

### 4. 応急措置

- 吸入した場合： 被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。  
 医師の手当、診断を受けること。
- 皮膚に付着した場合： 汚染された衣類を脱ぐこと。  
 皮膚を速やかに洗浄すること。  
 多量の水と石鹼で洗うこと。  
 医師の手当、診断を受けること。  
 気分が悪い時は、医師に連絡すること。  
 汚染された衣類を再使用する前に洗濯すること。
- 目に入った場合： 水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。  
 医師の手当、診断を受けること。  
 気分が悪い時は、医師に連絡すること。
- 飲み込んだ場合： 口をすすぐこと。  
 医師の手当、診断を受けること。  
 気分が悪い時は、医師に連絡すること。
- 最も重要な兆候及び症状：

応急措置をする者の保護: 有機溶剤用の防毒マスク、化学防護手袋、保護眼鏡等を着用し、あらゆる接触を避ける。

## 5. 火災時の措置

消火剤: 小火災: 二酸化炭素、粉末消火剤  
大火災: 散水、噴霧水、一般の泡消火剤  
棒状注水

使ってはならない消火剤:  
特有の危険有害性: 極めて燃え易い、熱、火花、火炎で容易に発火する。  
加熱により容器が爆発するおそれがある。  
火災によって刺激性、毒性又は腐食性のガスを発生するおそれがある。

引火性の高い液体及び蒸気。  
加熱により蒸気が空気と爆発性混合気を生成するおそれがある。: 屋内、屋外又は下水溝で爆発の危険がある。

特有の消火方法: 引火点が極めて低い: 消火の効果がないおそれがある場合は散水する。  
危険でなければ火災区域から容器を移動する。  
移動不可能な場合、容器及び周囲に散水して冷却する。

消火を行う者の保護: 消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。  
消火作業の際は、適切な空気呼吸器を含め、適切な化学用保護衣を着用する。

## 6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置: 漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない。  
直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。

関係者以外の立入りを禁止する。  
作業者は適切な保護具(「8. ばく露防止及び保護措置」の項を参照)を着用し、眼、皮膚への接触やガスの吸入を避ける。  
漏洩しても火災が発生していない場合、密閉性の高い、不浸透性の保護衣を着用する。  
風上に留まる。  
低地から離れる。  
密閉された場所に入る前に換気する。

環境に対する注意事項: 環境中に放出してはならない。  
河川等に排出され、環境へ影響を起こさないように注意する。

回収、中和: 少量の場合、乾燥土、砂や不活性吸収物質で吸収し、あるいは覆って密閉できる空容器に回収する。  
少量の場合、吸収したものを集めるとき、清潔な帯電防止工具を用いる。

大量の場合、盛土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いて回収する。  
大量の場合、散水は、蒸気濃度を低下させる: しかし、密閉された場所では燃焼を抑えることが出来ないおそれがある。

封じ込め及び浄化の方法・機材: 危険でなければ漏れを止める。  
漏出物を取扱うとき用いる全ての設備は接地する。  
蒸気抑制泡は蒸発濃度を低下させるために用いる。

二次災害の防止策: すべての発火源を速やかに取除く(近傍での喫煙、火花や火炎の禁止)。  
排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

## 7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い 技術的対策: 「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。

局所排気装置・全体換気: 「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の局所排気装置、全体換気を行なう。

安全取扱い注意事項: 使用前に使用説明書を入手すること。  
すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。  
周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止する。

		容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずるなどの取扱いをしてはならない。 眼に入れないこと。 接触、吸入又は飲み込まないこと。 取扱い後はよく手を洗うこと。 屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。
保管	技術的対策:	接触回避: 「10. 安定性及び反応性」を参照。 保管場所は壁、柱、床を耐火構造とし、かつ、はりを不燃材料で作ること。 保管場所は屋根を不燃材料で作るとともに、金属板その他の軽量な不燃材料でふき、かつ天井を設けないこと。 保管場所の床は、床面に水が浸入し、又は浸透しない構造とすること。  保管場所の床は、危険物が浸透しない構造とするとともに、適切な傾斜をつけ、かつ、適切なためますを設けること。
	混触危険物質: 保管条件:	保管場所には危険物を貯蔵し、又は取り扱うために必要な採光、照明及び換気の設備を設ける。 「10. 安定性及び反応性」を参照。 熱、火花、裸火のような着火源から離して保管すること。ー禁煙。 酸化剤から離して保管する。 容器は直射日光や火気を避けること。 容器を密閉して換気の良い冷所で保管すること。

## 8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度:	設定されていない。
許容濃度(ばく露限界値):	
日本産業衛生学会(2012年版)	150ppm : シクロヘキサン 200ppm : ヘプタン
ACGIH(2011年版)	TLV-TWA 100ppm : シクロヘキサン TLV-TWA 400ppm : ヘプタン
設備対策:	防爆の電気・換気・照明機器を使用すること。 静電気放電に対する予防措置を講ずること。 この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。 空気中の濃度をばく露限度以下に保つために排気用の換気を行なうこと。 高熱工程でミストが発生するときは、空気汚染物質を許容濃度以下に保つために換気装置を設置する。
保護具	
呼吸器の保護具:	適切な呼吸器保護具を着用すること。 必要に応じて適切な呼吸器保護具を使用すること。
手の保護具:	適切な保護手袋を着用すること。 必要に応じて適切な保護手袋を使用すること。
眼の保護具:	適切な眼の保護具を着用すること。 保護眼鏡(普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型)
皮膚及び身体の保護具:	必要に応じて適切な保護手袋を使用すること。 適切な保護衣、顔面用の保護具を着用すること。 必要に応じて適切な保護衣、保護面を使用すること。
衛生対策:	取扱い後はよく手を洗うこと。

## 9. 物理的及び化学的性質

物理的状態、形状、色など:	無色透明液体
臭い:	甘い臭い
pH:	データなし
融点・凝固点:	ー
沸点、初留点及び沸騰範囲:	シクロヘキサン:81℃(沸点)
引火点:	シクロヘキサン:-18℃(密閉式)
爆発範囲:	シクロヘキサン:下限 1.3vol%、上限 8.4vol%
蒸気圧:	シクロヘキサン:12.7 kPa(20℃)
蒸気密度(空気 = 1):	シクロヘキサン:2.9

比重(密度):	0.75
溶解度:	水に不溶、アセトンにい易溶
オクタノール/水分係数:	シクロヘキサン: log Pow = 3.44 (推定値)
自然発火温度:	シクロヘキサン: 260°C
分解温度:	データなし
臭いのしきい(閾)値:	データなし
蒸発速度(酢酸ブチル = 1):	データなし
燃焼性(固体、ガス):	該当しない
粘度:	シクロヘキサン: 0.98mPa·s (20°C)

「噴射剤」	プロパン
沸点:	-42°C
凝固点:	-187°C
引火点:	-90°C
爆発限界:	2.2~9.5 vol%
蒸気密度:	1.15 (空気1)

## 10. 安定性及び反応性

安定性:	通常の取り扱い条件においては安定。 移送時の流動、噴霧、漏れ等の際に静電気を発生しやすく、僅かな放電で引火する危険がある。
危険有害反応可能性:	酸化剤や過酸化物との接触で火災や爆発を起こすことがある。
避けるべき条件:	高温
混触危険物質:	酸化剤、過酸化物
危険有害性のある分解生成物:	一酸化炭素、窒素酸化物などの有害なガスを発生する。

## 11. 有害性情報 (主にシクロヘキサンとして)

急性毒性:	経口	ラット LD50	5000mg/kg、 6240mg/kg、30420mg/kg、 29800mg/kg、 12870mg/kg
			上記5データからの計算値 = 7729.9mg/kgに基づき、区分外とした。
	経皮		ラットで2000mg/kgの用量で死亡が見られなかったとの記載に基づき、区分外とした。
	吸入(蒸気)		本物質の飽和蒸気圧濃度は125743ppmであり、吸入試験は全て蒸気で行われたと考えられる。 ラット LC50 >9500ppm 4時間ばく露に基づき、区分外とした。
	吸入(ミスト)		データなし
皮膚腐食性・刺激性:			ウサギおよびヒトにおいて皮膚刺激性があるとの記載がある。ウサギでは反復投与により皮膚に亀裂を生じ出血を認めたと、投与終了後1週間では軽快し、ヒトに原液を1時間付着させた場合、発赤とみみずばれを生じたとの記載があるが、これも回復性の障害と考えられる。以上のことから区分2とした。
			皮膚刺激(区分2)
眼に対する重篤な損傷/刺激性:			ウサギで角膜混濁、虹彩炎、結膜充血・浮腫がいずれも可逆的に見られたほか、動物およびヒトで眼に刺激性があるとの記載があることから、区分2A-2Bとした。
			強い眼刺激(区分2A-2B)
呼吸器感受性:			データなし
皮膚感受性:			GLP試験において皮膚感受性がなかった結果が記載されているが、この試験は不十分な試験と記述されている。一方、予備欄にはヒトでの事例がないことが記載されている。以上の情報から、データ不足のため分類できないとした。
生殖細胞変異原性:			エタノール:ラット及びマウスにおける優勢致死の報告及びマウス生殖細胞における異数性誘発の報告がある。
			遺伝性疾患のおそれ(区分1B)
発がん性:			EPAでIと分類されていることに基づき、区分外とした。

生殖毒性:	エタノール:アルコールの習慣的な大量摂取によりヒト胎児に対する奇形その他の悪影響が多数報告されている。(区分1A) 親に体重減少が見られる用量、または親の一般毒性についての記載がない用量で、授乳期の児の体重低値、胎児の体重減少が見られ、雄の生殖器への影響(精巣の萎縮、精子への毒性)が見られたとの記載に基づき、区分2。
特定標的臓器毒性 (単回ばく露):	生殖能又は胎児への悪影響のおそれ(区分1A) 動物の多くの試験で中枢抑制が報告されており、麻酔作用があるとの記載が多いが、ばく露量のデータがない。ウサギへの経口投与において、区分2のガイダンス値範囲内の用量で血管損傷が見られたとの記載7)があることから、区分2(血管系)とした。ヒトにおいて気道刺激性があるとの記載、およびめまい、悪心、意識消失、反射の喪失など中枢抑制があり死に至ることがあるとの記載に基づき、区分3(気道刺激性、麻酔作用)とした。
特定標的臓器毒性 (反復ばく露):	血管系の障害のおそれ(区分2) 呼吸器への刺激のおそれ/眠気又はめまいのおそれ(区分3) エタノール:「ヒトでアルコールの長期大量摂取によりほとんど全ての器官に障害を起こすが、最も悪影響を与える標的臓器は肝臓である。障害は脂肪変性に始まり、壊死と線維化を経て肝硬変に至る」の記載に基づき区分1(肝臓)とした。また、「アルコール中毒患者の禁断症状(振戦症状、てんかん、精神錯乱)」の記載に基づき区分2(神経)とした。
吸引性呼吸器有害性	長期又は反復ばく露による肝臓の障害(区分1) 長期又は反復ばく露による神経の障害のおそれ(区分2) エアゾールはミストの状態では噴霧されるので、通常は該当しないため、区分外とした。

## 12. 環境影響情報 (シクロヘキサンとして)

水生環境有害性(急性):	甲殻類(オオミジンコ)の48時間EC50 = 0.9mg/L から、区分1とした。
水生環境有害性(長期間):	水生生物に非常に強い毒性 急速分解性があり(OECDテストガイドライン301Fによる28日間の分解度:77%、かつ生物蓄積性が低い)ことから、区分外とした。
オゾン層への有害性:	区分外

## 13. 廃棄上の注意:

残余廃棄物:	廃棄の前に、可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。 廃棄においては、関連法規ならびに地方自治体の基準に従うこと。
汚染容器及び包装:	都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。  廃棄物の処理を依頼する場合、処理業者等に危険性、有害性を十分告知の上処理を委託する。 容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

## 14. 輸送上の注意

国際規制	
海上規制情報	IMOの規定に従う。
航空規制情報	ICAO/IATAの規定に従う。
UN No.(国連番号):	1950
Proper Shipping Name(品名):	エアゾール (Aerosols)
Class(クラス):	2.1
Packing Group(容器等級):	-
国内規制	
陸上規制情報	消防法の規定に従う。
海上規制情報	船舶安全法の規定に従う。
航空規制情報	航空法の規定に従う。
緊急時応急措置指針番号	126

## 特別安全対策

輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。  
危険物又は危険物を収納した容器が著しく摩擦又は動揺を起こさないように運搬すること。  
食品や飼料と一緒に輸送してはならない。  
重量物を上積みしない。

## 15. 適用法令

労働安全衛生法:	表示対象物質：非該当 通知対象物質：シクロヘキサン、ヘプタン、エタノール 危険物・引火性の物 有機溶剤中毒予防規則：非該当 特定化学物質等障害予防規則：非該当
消防法:	第4類引火性液体、第一石油類（非水溶性液体）危険等級Ⅱ
毒物及び劇物取締法:	非該当
化学物質排出把握管理促進法： (PRTR法)	非該当
船舶安全法:	高圧ガス、エアゾール (危険物船舶運送及び貯蔵規則 第2、3条、告示 別表第1)
航空法:	高圧ガス、エアゾール (航空法施行規則 第194条、告示 別表第1)

## 16. その他の情報

## 参考文献等:

- 1) 中央労働災害防止協会「GHSモデルMSDS情報」
- 2) 独立行政法人 製品評価技術機構(NITE) GHS分類結果
- 3) 日本塗料工業会「GHS対応MSDS・ラベル作成ガイドブック [混合物用(塗料用)]」
- 4) JIS Z 7252:2009「GHSに基づく化学物質等の分類方法」
- 5) JIS Z 7253:2012「GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法—ラベル, 作業場内の表示及び安全データシート(SDS)」
- 6) ㈱タセト 社内資料(原材料MSDS)

## 記載内容の取扱い

本データシートは、製品の安全性に関する要求事項を記載しています。

本データシートは、製品の安全な取扱いを確保するための「参考情報」として、作成時点で当社の有する情報を取扱事業者  
に提供するものです。取扱事業者は、この情報に基づいて、自らの責任において、適切な処置を講ずることが必要です。

従って、本データシートは、製品の安全を保障するものではなく、本データシートには記載されていない、当社が知見を有さない危険性及び有害性のある可能性があります。